

新型コロナ予防対策として長期間の休業を余儀なくされ、6～7月をめどに営業再開を予定されている施設も多いと思いますが、2020年5月13日厚生労働省から事務連絡「施設の使用再開に伴うレジオネラ症への感染防止対策について」が各都道府県、保健所設置市、特別区の衛生主管部局あてに通知されました。

その概要は、浴場の**新規営業開始時や休止後の再開時はレジオネラ属菌が増殖している危険性が高いので、十分に消毒した後に営業開始、再開するよう注意すること**、および遊泳プールについても気泡風呂など、循環式浴槽と同様の設備が設けられている場合には同様に注意するとしている。

さらに「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づいて、加湿設備、冷却水、給湯設備等についても、適切な点検を実施し必要な措置を講ずる事としています。

上記に基づいてとくに、休業期間中に浴槽を空にしていた施設では、ろ過機内や浴槽に接続した配管内など浴槽水が滞留している箇所には生物膜（バイオフィーム）が生成せられ、レジオネラ属菌が増殖している場合が多いので、オーバフロー回収槽や60℃未満の温泉貯留槽内などを含めた、浴槽設備全体の消毒が欠かせません。

そこで浴槽設備が下記のような場合には、レジオネラ属菌が増殖している危険性が高いので、ろ過機を含めて循環装置全体を十分消毒し、レジオネラ検査によって浴槽水の安全性を確認する必要があります。

また循環ポンプを運転していても消毒を休止していた施設は、同様に消毒をする必要があります。

なお**消毒は、次亜塩素酸ナトリウムを浴槽に投入して、残留塩素濃度を50 mg/lとして2時間以上循環して放流**します。このときろ過機も十分に逆洗して内部を消毒してください。なお**放流先が河川や海などの場合には亜硫酸ナトリウムやチオ硫酸ナトリウムなどで中和して放流**してください。

□ レジオネラ属菌が増殖し易い部位を下記に示します（下図参照）

- ① 浴場とろ過機機械室が同一階にあるシステム
- ② ろ過機の直前に設置されているヘアーキャッチャー（集毛器）に接続する配管が、床面から立ち上がるように設置されているシステム
- ③ 1基のろ過機で2以上の隣接せずに設置された浴槽のろ過をしているシステム
- ④ 温泉貯留槽やオーバフロー回収槽を設置したシステム
- ⑤ 浴槽の水位を検知する設備が設置されているシステム（ただしセンサー式水位検知管を除く）
- ⑥ 気泡風呂装置を設置した浴槽
- ⑦ シャワーヘッドとホース

